

近世の出版文化

科目コード	2696657
学習センター	島根学習センター
学習センターコード	32A
クラスコード	K
科目名	近世の出版文化
科目区分	専門科目：人間と文化
ナンバリング	320
定員	40名
担当講師	タナカ ノリオ 田中 則雄 (島根大学教授)
日程 実施時間	2026年12月19日(土)第1時限 09:50～11:20 2026年12月19日(土)第2時限 11:30～13:00 2026年12月19日(土)第3時限 14:00～15:30 2026年12月19日(土)第4時限 15:40～17:10 2026年12月20日(日)第1時限 09:50～11:20 2026年12月20日(日)第2時限 11:30～13:00 2026年12月20日(日)第3時限 14:00～15:30 2026年12月20日(日)第4時限 15:40～16:25 2026年12月20日(日)試験・レポート等 16:25～17:10
実施会場	この授業は、【島根学習センター】で行います。

授業概要	【授業内容】 近世(江戸時代)は、出版文化が隆盛し、多様かつ大量の書物が作り出された時代です。それは、整版と呼ばれる木版刷りの技法によるもので、文字はもとより、技巧を凝らした挿絵まで精細に表現することができました。 これにより、1700年代後半頃、江戸の蔦屋重三郎らが黄表紙(絵が大きく描かれ、筋書きや会話が書き込まれた本)を出版して人気を博しました。また、1800年代初め頃、浮世絵師として知られる葛飾北斎は、曲亭馬琴らの創作した読本(長編の時代小説)の挿絵を、精力的に描きました。 整版印刷が文芸の発達をもたらした様相について、書物の実物や画像に即して考察します。 【到達目標】 ・具体的な事象に立脚して思考し、歴史を的確に理解できる。 ・印刷という営みを、営利活動としてのみならず、文化の側面からも捉えることができる。 【授業テーマ】 第1回印刷技術の歴史と書物―奈良時代から近世まで― 第2回近世における出版文化の隆盛 第3回整版印刷による書物のさまざま 第4回蔦屋重三郎と戯作者たち―黄表紙のことなど―(1) 第5回蔦屋重三郎と戯作者たち―黄表紙のことなど―(2) 第6回葛飾北斎と曲亭馬琴の読本(1) 第7回葛飾北斎と曲亭馬琴の読本(2) 第8回整版印刷と近世の文芸―総括― 【学生へのメッセージ】 2025年の大河ドラマに登場した蔦屋重三郎と戯作者たちによる作品、また島根県立美術館に収蔵されている葛飾北斎作品にも言及します。技術の発達が芸術の表現を深化させる様相には、現代にも通じる部分があると思われます。 【受講前の準備学習等】 「印刷博物館」、「和書のさまざま(国文学研究資料館)」などのWebサイトに、画像や解説が掲載されています。これらを活用して、古典の書物の形態や制作方法について、大まかな知識を得ておいてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 必須ではありませんが、適宜デバイスを持参し、内容的に関連するサイトで書物の画像などを閲覧すると、理解の助けになります。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の栞」をご参照ください。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 【その他(特記事項)】
------	--